

☆今回のポイント☆

◎1年生(入門期)の「かかわり」の目的とねらい

「くり上がりのあるたし算」=初めての問題解決学習 (既習事項から考える)

わかりやすいやり方は?という視点

1年生にとって、「本当に分かりやすい」とはどういうことか?
→今回の場面では、様々な方法から最適解を導き出すのは1年生には難しい。
被加数分解に絞ったり、「10のまとまり」に絞ったりして考える。

思考を広げ、深める場面で様々な方法、道具、書き方などを提示

具体操作からはできるだけ早く離れる!(個別支援は必要)
ブロック→イメージ図(さくらんぼ)→念頭での計算(ねらいは計算技能)
ヒントカードや発表用話型の提示などが有効だった。

同じところはどこかな?(一般化する発問)

「10のまとまり」が大切だという「数学的な見方・考え方」へ。
板書の構造化がとても有効だった。

<説明する活動>...数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり、目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。

低学年	ペアで	話して、聞く。
中学年	2~4人で	話して、聞いて、比べる。
高学年	2~4人で (意図的であれば多数で)	話して、聞いて、比べて、よりよいものをつくり出す。

かかわりの場を設定すれば全員が発表しなくても活動保障できる。

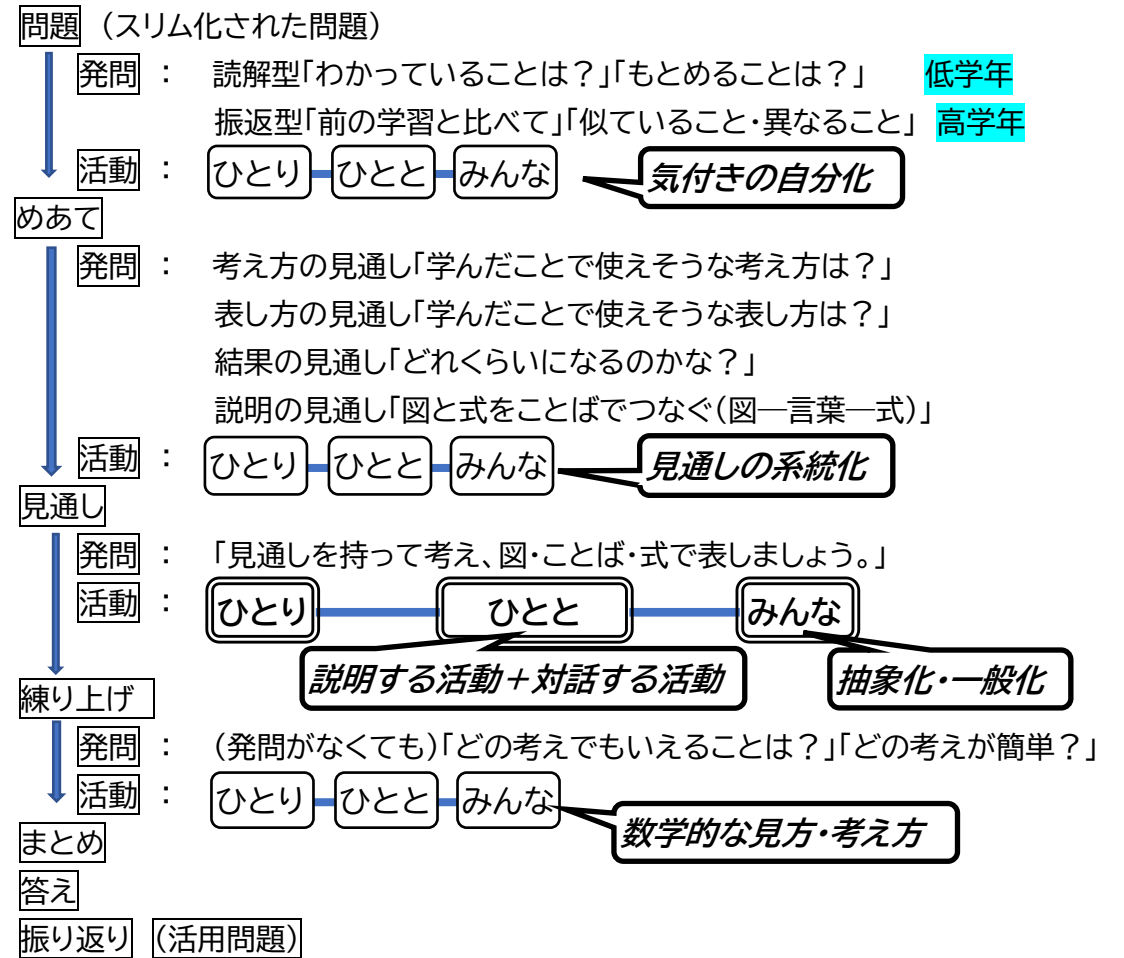
※すべての子どもにチャンス!

1時間に1回はすべての子どもが、「ことばで説明する」場を設定!

今回は初任研を兼ねた研修でした。初めての研究授業を真摯に取り組んだ渡邊先生、支えてくださった1年生の先生方、本当にありがとうございました。今回は、当日の参観人数も少なく協議会もやや静かに進行しましたが、講師の橋本先生から有意義なお話も聞けました。
全員で「共有」し、「だれでも」できることにしていくために、「短期目標としてこれだけは!」という共通認識にしていくべきことを提案していきます。

◎「数学的な見方・考え方を軸に」、授業を構造化する

→「かかわり」の場の設定に意図を持って!



- ・その時間の「〇〇な(各教科)見方・考え方」は何か。
- ・スモールステップで ひとり → ひとと → みんな を設定する。
- ・算数科の学び合いの場は、(学年に応じて)
「説明」+「対話」(グループ) → 考察・確かめ(全体) → 一般化・抽象化(個)